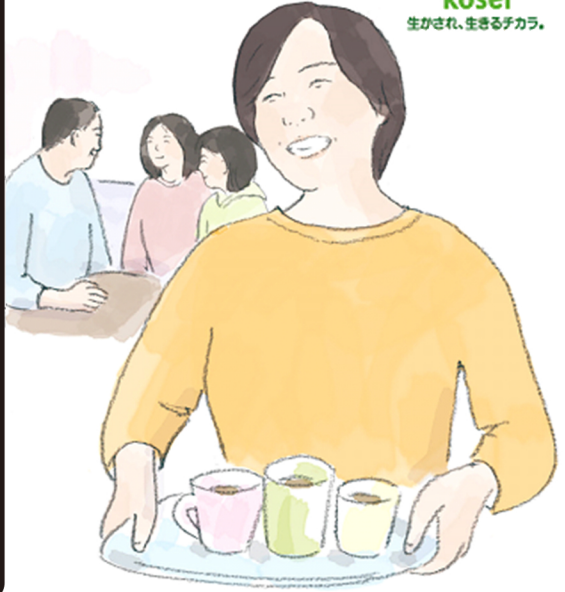


## 長女が教えてくれた親の姿

墨田教会 加藤友希江さん

加藤さんは、うつ病を発症した長女の悩みの深さを知り、申し訳なごで胸が締め付けられた。これから親としてどう接したらいいのか、仏教とともに学ぶ仲間に相談すると、「娘さんは親の期待に応えようと精いっぱい努力してきただね。そこを認めて、娘さんに寄り添っていくといい」とアドバイスされた。思い返せば、長女なりの頑張りを認めず、要求してばかりいたことが長女の心を追い詰める原因になっていたことに気づく。そして、「もう一度、丸ごと愛してみよう。今を大切に、喜びも悲しみも共に味わって歩んでいこう」と誓い、惜しみなく愛情を注いだ。その後、部屋に引きこもりがちだった長女は、リビングで家族と穏やかに過ごす時間が増えた。長女の将来を考えると不安がないとは言いがたい。でも、共に歩むことで壁は乗り越えられるし、自分も一緒に成長できると加藤さんは信じている。



## 季節の風物に心を寄せて

自然は何一つ文句をいわず、ただ黙々とあるべき姿を見せ、多くの命を生かしてこの世をあらしめていきます。つまり、大自然は真理を黙って実行しているということ。そして、私たちの体が新陳代謝を繰り返すのもまた、真理を実行する大自然の姿の一つといえます。そうした大自然の営み、すなわち真理のはたらきに気づくことで、心の安定と救いをもたらされるのかもしれない。

たとえば、地球の美しさにふれた感動が、地球という星が存在する奇跡のような確率や、そこに息づく命一つ一つの営みを思う心に結ばれるとします。そうすると、この星で大切なのは、他を攻め、争うことではなくて、お互いの命を讃えあうことだと、だれもが気づくのではないのでしょうか。そのような自覚が、人の心を穏やかにするのです。

その意味でも、できれば感性豊かな幼い子どもと一緒に、星を見たり、足元の草花に目を向けたりしてみてもどうでしょうか。もちろん、自宅にいても季節の風物や自然の営みにふれることはできます。それは、自分の感性を磨くと同時に、これからの時代を生きる人と真理のはたらきを楽しみ、味わい、語りあうことです。心を育み、「人を植える」という未来に向けた大切な菩薩行でもあると思うのです。

